

9月13日(日) @AK Live 配信 礼拝 原稿 能城一郎

タイトル：力強い励まし

聖書箇所：ヘブル書 6章18節

【新改訳2017】

Heb 6:18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。

新約聖書で、「励まし(パラ・クレーシス)」は、29回登場します。「力強い(ヒスキュロス)」も、29回登場します。しかし、この二つの言葉が結合した、「力強い励まし」は、ヘブル書6章18節だけに登場します。ですから、今日のタイトルを「力強い励まし」とした次第です。18節を見ると、「力強い励まし」は、(1)「二つのもの」によって与えられる事、(2)それを求めて「逃れて」きた、ヘブル書を記した本人を含む「私たち」といわれる人々が「力強く実感」していた事、ということが分かります。ヘブル書の著者については、諸説があります。使徒パウロ、使徒4:36の「レビ人バルナバ」、ルターは、「雄弁なアポロ」、等々があります。現代の福音主義神学では、「ヘレニズム世界のユダヤ教の教養と聖霊の導く聖書信仰の持ち主」ということとしています。

これから、3つの事をお話いたします。

1. 力強い励ましの実感
2. 変わらない二つのもの・約束と誓い
3. 前に置かれている希望

### 力強い励ましの実感

励まし(パラ・クレーシス)の本来の意味は、「そばに来て、寄り添って助ける」ことです。目に見えない神様が、信じる人の側にいて助けてくださるという信仰の体験です。それは、妄想、幻想ではなく、信じる人にとっては、決して忘れることが出来ない、慰め、癒し、励ましの体験です。

マタイ福音書28章の最後の箇所は、この「力強い励まし」の体験がどのようなものであるかを教えてください。

マタイ

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

「力強い励まし」に対する信じる人々の共通理解は、十字架の上ですべての人の罪の贖いとなったイエス様が共にいてくださるという実感です。ヘブル書では、このイエス様が、信じる人々の「弱さを理解して」とりなす。愛と慈しみの大祭司として記されています。4章14-16節に記されています。

ヘブル

4:14 さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

使徒パウロは、『私たちは神の中に生き、動き、存在している』と使徒の働き17章28節で、神の存在を信じてはいるが、その実感がない当時のインテリの人々に向って、活ける神のくはたらき>、すなわち、信じ受け入れた人々を慰め、癒し、励ます神を証しました。

8/30(日)は、ZOOMでの初めての「お証礼拝」をしました。お証とは、信仰の体験を分かち合うということです。神のくはたらき>は、とても豊かで、信じる人々の「折にかなった助け」です。いつも、主が共にいて、「力強い励まし」があることは、なんと幸いなことでしょうか。

**変わらない二つのもの**

Heb 6:18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。

18 節は、ギリシャ語の原典では<sup>1</sup>、「二つの変わらない事柄 (デウオ パラグマトーン ア・メタセトーン)」で始まっています。そして、「変わらない二つのもの」によって、「力強い励まし」を受ける、と続きます。後半にも、「その二つについて、神が偽ることはあり得ません。」と記されています。信じる人々に「力強い励ましを与える」この「変わらない二つのもの」とは何のことなのでしょう。第1は、「約束」、第2は「誓い」です。それも、創造主である神の「約束」と「誓い」と書かれています。

第1の「力強い励まし」を与える「約束」のことは、ヘブル書 6 章 13 節~17 節が、それを教えてくれます。

ヘブル

6:13 神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、

6:14 「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」と言われました。

6:15 このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。

6:16 確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。

6:17 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。

15 節の「アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。」の「忍耐の末」は、創世記 22 章 1 節から始まる。「イサク供養」といわれる、アブラハムの人生最大の試練の事です。

創

22:1 これらの出来事の後、神がアブラハムを試練にあわせられた。神が彼に「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は「はい、ここにおります」と答えた。

---

<sup>1</sup> δύο πραγμάτων ἀμεταθέτων

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」

アブラハムは、「ひとり子を失う」ことと、「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」との神の語りかけの絶対的な矛盾の前で葛藤しました。しかし、アブラハムは、その葛藤を、「信仰」によって乗り越えて、「約束」を手にすることが出来ました。神の「約束」を手に入れることが出来た人は、これまでにない感謝を神にささげることでしょう。また、神の「約束」を手に入れた人は心のうちに、明鏡止水、澄み切った「信仰の達成感」が与えられることでしょう。この神への「感謝」と「信仰の達成感」から、決して忘れることの出来ない「力強い励まし」が生じることは、当然のことと言えます。

もう一つの信じる者に、「力強い励まし」を与える神の「誓い」と何でしょうか。17節には、「誓いをもって保証されました」と書かれています。神が誓われ、決してそれを反故にすることがない、神が絶対的に保証される「誓い」それをヨハネ福音書 3章 16節は示しています。

ヨハネ

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神が誓われ、決してそれを反故することない、神が絶対的に保証される「誓い」それは、「十字架のあがない」であるということが言えます。神の「約束」を手にする事、神の「誓い」を信じる事が、「力強い励まし」を産み出すということ以上、お話いたしました。最後に、「前に置かれている希望」のお話をしてメッセージを閉じたいと思います。

### **前に置かれている希望**

Heb 6:18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。

ヘブルの著者とその仲間たちは、敬虔で熱心なユダヤ教徒であったと考えられます。彼らは、

その当時のギリシャ文化、ローマ文化の教養を身に着けた人々でした。彼らは、聖霊のくはたらき>によって、イエス・キリストの十字架の贖いを信じる者へと選ばれたユダヤ人でした。イエス様のことばでいえば、古い革袋を捨て、新しい革袋になった人々です。古い革袋の人々から、彼らは排斥されていました。12章2節には、彼らの信仰の道を守るため、彼らの日常の生活のスローガンが書かれています。

ヘブル 12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

ヘブル書 1章1節~3節には、彼らの「希望」である、古い革袋の仲間にも、知ってもらいたい福音、「良き知らせ」が、力強く描き出されています。

ヘブル

1:1 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、

1:2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。

1:3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。

彼らの希望とは、十字架で死なれ、三日目によみがえらされ、天の神の右の座について、信じる人々のためにとりなして下さるイエス・キリストを人々に伝える事でした。また、彼らの希望は、彼ら自身も、「力強い励まし」を受ける、「神のことば」の活力でした。

ヘブル 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髓を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

さらに、彼らが捕らえようとしている「希望」は、目に見えないものでした。「信仰の定義」として有名なヘブル書 11章1節がそのことを語っています。

ヘブル 11:1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

ポストコロナの時代、それは、まだ、目に見えていません。目に見えないものを確信させるもの、それは、「信仰」です。この信仰は、「力強い励まし」を信じる人々に、与えます。

ヘブル書 11 章 1 節~40 節を全部読みたいのですが、時間がありませんので、アブラハムに関する箇所をお読みして、メッセージを閉じます。

ヘブル

11:8 信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。

11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。

11:10 堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。

11:11 アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです。

11:12 こういうわけで、一人の、しかも死んだも同然の人から、天の星のように、また海辺の数えきれない砂のように数多くの子孫が生まれたのです。

お祈りをします。